



第27号 2011年9月9日

2011年9月22日、渋谷区文化総合センター大和田6階伝承ホールにて、チュムパンの会、二回目の発表会となる、韓国舞踊「舞々香」が行われます。

現在、ご指導と準備にご多忙中の、趙寿玉先生にお話を伺いました。

—さて、二回目の発表会ですが、どのような内容になるのでしょうか？

趙寿玉 今回は、チュムパンの会の中でも、長く続けてきた人たちが踊る会です。私のもとで十年以上に渡って作品を学んできた人や、それぞれ紆余曲折ありながらも、とにかくやめずに踊りを続けてきた、そんな6人で行う発表会です。

続けるって、どれだけ大変なことか。舞踊家じゃない人が、自分の仕事や家のことや、いろいろあるなかで、舞踊を長く続けることは、それだけで、もう大変なことです。だから、

発表会「舞々chum」香」に向けて

この人たちとやれる、そう思っています。

今回、「私は、人前では踊らない」、そう選択した人もいます。それもまた、ひとつの続け方です。ある意味今回の会は、卒業的な感じもあり、通過点のひとつでもあります。自分が今まで、どういう踊りを踊ってきたか、また、今からどんな風に続けていきたいかを認識するよい機会になると思います。人の前で踊る厳しさや、人前にさらけださずにはいられない表現とは何かを知る機会にもなるでしょう。

本当に、皆さまに、いい機会を与えていただきます。なかなかできないことですからね。

—全体の構成や、作品を決めるにあたって、ご苦労はありましたか？

趙 今回は、みんなが自分の足で立つ、自分自身の魅力で、ひとりひとり屹立する、それが目標です。みんなが目立って、みんなが主役になるように、ものすごくいろんなことを考えました。その人の持っている良さや、得意なことや、逆に、苦手だけれどこれをやったら伸びる、変わるということや・・・。

もちろん、6人とも、足りないところもたくさんあるけれど、誰にも負けない、いいところも絶対にあります。自分でそれを

考えて踊らなければいけないし、ご覧になる皆さまにも、是非、その魅力を見つけて欲しい。プロではなく、素人が真剣に踊る

からこそ、きつと、踊り手自身のある方を、より身近に感じていただけるはずですよ。

「〇〇流の踊り」を見せる会で



撮影：和田咲子

2008年発表会より

はなく、自分たちの好きなやり方で、「私の踊り」「私たちの踊り」をお見せしたい、その結果、皆さまに、来てよかったと思っただけの会になればと思います。

—衣装や音楽も、気になります。

趙 衣装は、韓国の舞踊家達の間でも評判の若手韓服デザイナー、イ・ソユン先生にお願いしました。また音楽も、日本で活躍する実力派演奏陣に加え、韓国から、若手の演奏家と民謡の歌い手をお招きします。

生の演奏で踊る舞台には、特別な神様が力を貸してくれるものなんです。私も実際に、何度もそんな経験をしています。皆様にも、踊り手たちと一緒に、そんな体験をして、その現場を楽しんでいただきたいですね。

そして今回は、京畿（キョンギ）地方と江原道（カンウォンド）の、おおらかで、ちょっと切ないような、奥行きある民謡・ソリ（唱）の魅力味わっていただくと考えています。実は、ずっと以前から、南道（ナムド）ではなく、京畿や江原道の音楽や、西道（ソド）民謡を使ってみたかったのです。今回は、唄で踊るのではなくて、民謡を味わうことで、声が感情に訴えかけてくれるもの、ホッとしたり、楽しくなったり、何かを思い出したりといった感覚を、皆さまに楽しんでいただきたいと思います。お客様への、ちょっとしたサービスなのつもりです。

（聞き手：柏木美奈）

発表会を前に 出演者たちのつづき

金 玟

二十歳で初めて見たサルプりに韓国の呉(モツ*)を感じた。間もなく自分の体内に韓国の장단(チャンダン)*2)はあるのか確かめたくて舞踊を始めた。장구(チャング)のリズムに心は踊り、가야금(伽倻琴)の調べに合わせて舞う心地よさを知った。そして他の女性達と同じように家事都合によりいつしか舞踊から遠ざかったまま時は流れた。四十代になって、ふとしたきっかけから(いや封印していた舞踊への思いをいつか解く日を何処かで待ち望んでいたのかもしれない)師に出会い、いちから韓国伝統舞踊と向き合うこととなった。

基本動作のひとつひとつを丁寧にひとつと美しくと自分自身のために練習を重ねるひと時が幸せに感じられた。そして、今日また新たな段階に挑戦する私がいる。私の舞踊を私以外の人々に見ていただこうというのだ。不安、畏れ、自己嫌悪、焦り：は脱ぎ捨て、舞台ではとにかく一杯舞おう。私の中では、最初で最後のハレ舞台に、たくさんの感謝の想いを込めて。

*1 モツ：粹とか格好良さといった意味
*2 チャンダン：韓国音楽のリズムパターンの名前。

辛 錦玉

韓国舞踊を習い始めて、9年が過ぎようとしています。朝鮮舞踊の経験があるとはいえ、チャンダン(リズム)の取り方や、足の運び、重心移動、手の動き等々、あげればきりがありません。すべてが一からのスタートでした。また踊れると言う嬉しさと、ありがたさで気持ちがいっぱいでした。

今回の発表会では、僧舞を踊らせていただくことになり、感慨深く、また嬉しさで胸が一杯です。

昨年、僧舞を習い始めた時から、自分の体の中からみなぎってくる力を感じ、とても気持ち良く、また何かが浄化されるような不思議な気分でした。また一つ韓国舞踊の奥深い所を垣間見た感じでした。この気持ちを大事にして本番の舞台で私自身、等身大の僧舞を表現できればと、連日練習に汗を流しています。

人生、半分以上生きてしまい、どう生きるかは、どう死んでいくかと、この頃思う所があります。発表会はその一コマ。悔いのない人生のため、悔いのない発表会にしたいと思います。

林 鮮玉

人前で踊る、体で表現する、少な

くとも10年前までの私には考えもつかない事でした。

10年前「アリランを踊る4回コース」というのに参加したのが最初でした。簡単そうに見えてもえらく難しく、右手右足が同時に出る私は一回で挫折してしまいました。しかし何故か次の月からカルチャースクールの韓国舞踊教室に通うことになる



のです。自分でも不思議でした。学生時代の友人には「あなたが踊るなんて想像も出来ない」と言われます。私自身とても不思議です。韓国のリズムにのって踊っていると、うれしく、悲しく、せつなくなりませす。

よい師とよい仲間にも恵まれ、今や生活の一部になってしまった韓国舞踊、これからも元気でいつまでも続

けて行きたいと思いません。いつも文句も言わずに練習に行かせてくれていた家族に感謝し、会場まで足を運んで下さるお客様に感謝し一杯踊ろうと思います。

宮崎節子

韓国舞踊を始めた時、一度でいいから「韓国舞踊」を見てみたいと思っていた。私はたまたま長鼓をやっていたのですが、当時習っていた先生からは「長鼓をやるなら舞踊でリズムを体にいれなさい」と言われ、先輩の方々の踊りを見よう見真似で始めた。20年前の事ですが、韓国に行くにもまだ遠い時代、心の中に「渴望」の思いが募り「いつかきつと」がくすぶり続けた。音楽とチャンダンが、あの何ともいえない楽器の音色が聞こえると「渴望」への思いが一つになり、身体が動き出して：と言いたいのですが、今の現実、大汗をかいてチャンダンに遅れないように、速くならないように必死でこらえる私の下半身。「オンニ、もっとお尻を締めて、顔で踊らない！」と趙寿玉先生の厳しい現実の声。好きです。先生のそのレントゲンの透視の如く、身体の状態を見破る鋭さが。韓国伝統舞踊の奥深さを、エネルギーを惜しみ無く分けてくれる先生の掛け声。現実に現役で踊れてうれしく、カムサハムニダ!!

「発表会を前に 出演者たちのつぶやき」の続き

朴信江

発表会の衣装ができて上がって来ました。どの演目の衣装もステキで、身に付けると、それだけで気持ちが高揚し嬉しくなります。以前何かで「人には変身願望がある」と聞いたことがありますが、韓国舞踊ってそうだな〜と思いました。ある時はタンウイ(唐衣)の衣装で王妃の様に。ある時はカツ(帽子)をつけて粋な男性の様に。その気持ちになって踊る。けれどそれだけでは足りない。サルプ(舞)の練習中に、先生が「自分のこれまでの人生を振り返る様に」と仰いました。右手を少しずつ上に上げ、前に一歩進むその時に、それだけの物を振り返る。左手を上から下におろす時も「遠くに何か大切な思いを届けて」とも。どんな衣装の踊りでも、表現するのは自分の中の思い。踊り続けた年月を振り返ると、色々な事



がありました。踊ることで自分を見つめ、乗り越える事ができました。修行の場であり、癒やしの場でありました。趙寿玉先生、チュムパンの仲間に、深く感謝します。

趙昌代

初めて、趙寿玉先生の門を叩いたのは、1997年の春でした。早いもので、14年が経過した計算になります。子供の頃からやっていたわけでもなく、特別な才能があるわけでもない私が、人前で踊ったりして良いものか? そもそも、何のため、何を目指して、踊っているのか? 迷走の14年でもありました。進んだり立ち止まったりしながら、ようやく、続けていく覚悟みたいなものが芽生えてきました。韓国舞踊では、よく「中庸」という言葉が使われます。日常生活の中でも、踊りの中でも、常に意識は持ちながら、気負うことなく、精進していこうと思います。今回の公演にわざわざお越しいただく皆様から、私たちは、おそらくたくさんのお力を戴くことでしょうか。まだまだ未熟な私たちですが、そのお返しとして、何かほんの少しでも、心の中にお土産をお持ち帰りいただけよう、感謝の心をこめて舞台を努めたいと思います。

活動報告

◎2010年12月3日(金)
第1回在日コリア文化フェスティバル
在日をこえて—新たな100年に向けて
出演
新宿四谷区民ホールにて

◎2010年12月5日(日)
うた芝居「さんねん峠」
ハムケ・共に1周年のつどい
に特別出演
現代産ホールにて

◎2011年2月19日(土)から21日(月)
ワークショップ開催
韓国より人間文化財の韓東熙スニム(お坊様)を
お招きして、ナビチュム(蝶の舞)を習った。

今後の予定

◎2011年9月19日(月・祝)
福岡・宗像市主催
「むなかたの音〜響きあう
日韓のこころ〜」
企画 九州大学大学院ホールマネジメント
エンジニア育成ユニット宗像ユリックス
福岡・宗像市 宗像ユリックス ハーモニーホールにて

◎2011年9月22日(木)
チュムパンの会 発表会「舞-音-」
東京・渋谷
渋谷区文化総合センター大和田 伝承ホールにて

◎2011年10月8日(土)
「男たちの手仕事ライブ」
東京・銀座 ギャラリー悠玄にて

◎2011年10月28日(金)
「한일판굿」
韓国・ソウル KOUSにて

◎2011年12月
趙寿玉チュムパンの会 発表会



問い合わせ先:

チュムパンの会事務局 ☎ 090-6312-7156 林鮮玉
E-mail: chumpan0530@ezweb.ne.jp